



町人囊底拂

下

七

町9
108
7止



町人囊底拂卷下



日本ハ少陰の國ニテ造化生々其氣壯さかひなるニヤ世
 世推すま古帝ハ沛沛時人民の數四百九十六万九千餘
 人トシ今聖武帝ハ沛沛ヨリ至テ八百六十三萬
 一千餘人トナリ兩帝相去事百二十年人民の増益
 凡おほ六百六十六万餘人是と唐土の人数ニ較くらべば凡おほ六
 前漢の人数五千九百五十九万四千九百七十九人トシヤ
 夫まハ後漢三國晋しん南北朝と歴く隋ていの代よシテ
 人数四千六百一萬九千九百五十六人とシテ凡おほ次つニ
 唐宋元明と歴く今清朝しやうヨリ至りテ口数凡おほ六千

町人囊底拂卷下

町

二百萬と云や漢より隋の初て人殺減少と其間迄世
多かりぬるや隋より清の初て一千百年にて人殺
乃増加九一千五百九十八万人なり今日本れは殺九二
千何百万と云や隋の推古帝は尙ふ相當なり此時日
本れ人殺五百萬は不足して今二千餘万人なる所の
唐土の増益より甚多し地は尙唐土十分之一は不足
して人殺は三分之一より多きなり今清朝の人殺九
六千二百万と云や日本當代の人殺二千四百万人と云
静と主として人極と云といふを得るべきなりや静は
二の所の動静は静と止静の静とあり動静は静は

僅と動と雜と天の運行地のまゝ常に健と
して須臾止時あり動は天の進むる静は天の退く
なり進むる是動退くは又是動也動は事ありては
退く事ありては陽は是動陰は是動也動は進
退遅速の所の是と動静と止静は動静を
離れて論じし天地萬物滅し已はるべきなり止
静は至るべきところは陰陽動静死生晝夜の皆
大氣の性ありてそのまゝなり其の理也此理
常に大氣は離るるまじし或いは一氣は離れて
別は理といふものあり別真の理はありといふと

名付べきことなかりけ

國の貴賤ハ繁華とありて定じくは飢寒乃民
なくんばを上國とす一繁華れ國の財宝
多くと食不足質素れ國の宝貨とくあり一多
食餘りあり食ハ民の本ありて民ハ國の本あり
本固きとれたハ國安くとるや

淮南子に寒國ハ壽多く熱國ハ夭多しとて是
大體乃説ありて今委しく考ふるハ一偏より
南天竺莫卧爾國ハ暖國とて長命なる國あり
百歳を起る者多しとて其人質素乃風俗

わけて静小噪ハ雞ハ食ハとては豬肉ハ食ハ
ふ事と林と按とるハ壽夫ハ國の寒熱ハ事ハ
人ハ質素養性よりハ文華ハ風俗とてハ酒肉
食ハ大過ハ依て夭死と云ハ故也然ハ寒國乃
人ハ酒肉ハ傷らる事と云ハ暖國の人ハ死多
き事ハ酒肉ハ過ハ依てちかり美酒牛羊
猪鹿皆ハ濕熱乃食地氣ハ暖熱ハ合きて元
氣ハ消と云ハ故なりハ紅毛人其本國ハ北方
寒國なりとてハ咬啮吧國乃ハ熱國ハ居住
ハ必乃酒肉と大寒地のゆかりハ食とるなり

紅毛人壽命五十歳より下る者ほ多くい三四千
ありて夫死と在國ハ長命ハ國かりとくや此ハ琉球
其皇^皇海^海多^多六^六燠^燠國^國の人^人短^短命^命多^多事^事ハ皆^皆酒^酒肉^肉乃^乃食
ハ傷^傷て^てかり^り莫^莫卧^卧兩^兩國^國ハ長^長命^命なる^る然^然り^りて^て家^家と^とも
日本^{日本}神^神社^社ハ肉^肉食^食と^と禁^禁制^制と^とほり^り上^上代^代ハい^いあ^あり^りし^しや
古^古書^書ハ天^天子^子元^元正^正の^の神^神齒^齒く^くり^り小^小猪^猪肉^肉わ^わり^り申^申右^右采
小^小天^天子^子ハ供^供神^神ハ猪^猪鹿^鹿木^木乃^乃肉^肉類^類わ^わり^り事^事と^と同^同じ^じ神
社^社ハ^ハ伊^伊勢^勢熊^熊野^野等^等人^人ハ四^四足^足の^の食^食ハ^ハ忘^忘る^るる^るり
若^若誤^誤く^く食^食する^るハ^ハ何^何い^い忽^忽ハ^ハ身^身體^體ハ^ハ病^病患^患生^生じ^じく^く云
然^然ル^ルハ^ハ信^信濃^濃國^國諏^諏訪^訪の^の神^神社^社と^とい^い四^四足^足と^とい^いる^るは

神^神供^供せ^せし^しる^るハ^ハ神^神人^人多^多し^し食^食て^て何^何の^の祟^祟患^患ハ^ハほ^ほこ
り^りし^しる^るハ^ハ小^小上^上古^古の^の神^神ハ^ハ水^水土^土乃^乃寒^寒熱^熱と^と察^察し
信^信ハ^ハ萬^萬民^民の^の壽^壽と^と病^病患^患と^と恤^恤か^かの^のく^く其^其水^水土^土ハ^ハ氣
ハ^ハ随^随ハ^ハ給^給して^て食^食ハ^ハ林^林好^好氣^氣定^定り^り教^教ハ^ハ天^天死^死疾^疾病^病ハ^ハ
く^くと^とらん^んの^の神^神魚^魚なり^り此^此故^故ハ^ハ日本^{日本}水^水土^土乃^乃差^差
別^別南^南海^海乃^乃徳^徳國^國日^日輪^輪運^運行^行の^の線^線道^道ハ^ハ近^近く^く大^大湯
寒^寒水^水の^の海^海潮^潮の^の氣^氣ハ^ハ受^受か^か事^事強^強く^くして^て温^温暖^暖濕^濕熱^熱
乃^乃氣^氣ハ^ハ屬^屬と^と猪^猪鹿^鹿乃^乃肉^肉食^食濕^濕熱^熱ハ^ハ地^地氣^氣ハ^ハ合
して^て甚^甚大^大過^過ハ^ハ疾^疾病^病天^天死^死類^類ハ^ハ信^信列^列諏^諏訪^訪
那^那ハ^ハ日本^{日本}第^第一^一乃^乃寒^寒地^地也^也湖^湖水^水凝^凝凍^凍て^て人^人馬^馬氷

上と付本と地氣を寒燥より此故に神明人民
小教(免)て肉食の温補を以て身體と告い
て寒固として海潮小近く温熱の氣多き水土
ゆて肉食を以てさ理たり本朝神明の事代を
鑑し終人の多智を信し事たり

唐土の儒道と日本の神道と似く異なり處有
是は公辨と云る學者の神民よわは此差別は
といふに智も存れ義勇も存れ也存れを
いふの道専らする小わはをのつこは乃氣風
宋朝の宰相韓魏公は文徳兼備の大賢たり

或時相別の漢として約き以物を釋眞の時や
當りて人腐館小一宿して孔子祭をせしむる
其夜盗人悲ひて韓公の寢所に帷幕をひき刀
を抜けて公よいつれに我世後へはは濟しん
得んらん母をりて公安らまかり今も
器財百金の直あり皆汝よわと盗りて
是のを得んといわは願くは公れ首を擗て西
人獻せしといふ韓公則頭を擗て少く愛する
色を帯れぬる盗人感化して公は天下に
徳量第一の君子たりといひて刀を捨て拜教

一此まふ人は世に待たる公の徳量とて試みそふり
 成して器財とるるてふて出まらう公則齋館乃
 器財と別償の額て後ていひける人よ器財
 ありしものら行歴く被盗人他乃罪科を捕了
 是謀をいひに除ててつづ先はまは詰りて韓云
 乃徳量新のめくちる公世ふらまきさる公情んて今
 ろう世をいふま新のめくちる公世ふらまきさる公情んて今
 の徳量をいふま新のめくちる公世ふらまきさる公情んて今
 人よちて日本にゆめて新のめくちる公世ふらまきさる公情んて今
 弱あるふらまきさる公世ふらまきさる公情んて今

沈静神妙なる事也武士ありては身小身
 小うは男をたの殿と得てて分座しる事必
 然らり所人百姓ありては温和結構い事により
 へては人けあひと受ん事し之ちらるる盗人
 大勢なれ其候て居りし額とのん事いへば
 さまも盗人偶よ公の徳に感とるべしそのゆゑ
 若くはかゝるものあつてはふらまきさる公情んて今
 づくふをては君の老いふらまきさる公情んて今
 日本めくは罪科はたからるものゆへ又盗人の池
 をふらまきさる公情んて今

價^{たか}を求^{もと}むべしといふ只孟子は若^{ごと}中國の人民孟子と携^{たづ}
 へ結^{むす}まわしむる必^{かな}其^{その}再^{また}纒^く縮^くと見^みえ又一^{また}奇^き事^{こと}たりと
 わりし事^{こと}未^な審^しま^らずとて又^{また}信^まか^らず又^{また}孟子は
 禁^しじ^ます不^ふ國^{こく}一^{いつ}日^{いち}皇^{こう}明^{めい}通^{つう}紀^きとて又^{また}以^もて
 孟子は臣^{しん}とてある事^{こと}亦^{また}其^{その}何^{なに}の臣^{しん}とて又^{また}君^{きん}を
 みつるの寇^{こう}讎^{しん}の如^{ごと}くといふをかんたんにして又^{また}孟子は
 然^{しか}り惡^{あく}く廟^{めう}祭^{さい}と降^{くだ}ん^ごの多^{おほ}くの事^{こと}あり左^さ祖^その惡^{あく}は
 不^ふ意^いの事^{こと}に似^にたりとも寇^{こう}讎^{しん}の如^{ごと}くはといふ事^{こと}も諸^{しよ}勢^{せい}を
 去^さりて處^こわしむる代^{だい}の人民^{じん}孟子の語^ごと氣^き味^みよくあひ
 樂^{らく}射^{しや}の君^{きん}よりあはれといふは僅^{わずか}よ君^{きん}の過^{たが}ひあり何^{なに}の孟子

乃^{すなは}語^ごを以^もて實^{じつ}として信^まか^らず惡^{あく}ま^らずい^いの也^{なり}はた^た祖^そ乃^{すなは}
 惡^{あく}く信^まか^らずや唐^{たう}土^どの如^{ごと}く也^{なり}斯^{しか}の事^{こと}ありといふや
 日本^{にっぽん}の人情^{じんじやう}をいふ事^{こと}もいふに大^{だい}德^{とく}は君^{きん}よりありてよ
 樂^{らく}射^{しや}はひくも君^{きん}よりいふ事^{こと}もいふに是^{こゝ}に義^ぎ賊^{さく}送^{そう}して
 天下^{てんか}と奪^{うば}ふ事^{こと}の例^{れい}は世^よ國^{こく}人情^{じんじやう}の免^{あは}れは處^こわしむ
 偶^ぐ々^々位^いと奪^{うば}ふ事^{こと}もいふに是^{こゝ}に大^{だい}皆^たくといふ事^{こと}も
 又^{また}天^{てん}罰^{ばつ}といふ事^{こと}も世^よ國^{こく}人情^{じんじやう}の免^{あは}れは處^こわしむ
 不^ふ可^か是^{こゝ}に水^{みづ}土^どの凡^{たゞ}儀^ぎ也^{なり}然^{しか}る事^{こと}も孟子の如^{ごと}くは
 寇^{こう}讎^{しん}の如^{ごと}くはいふ事^{こと}も一^{いつ}夫^ふれ射^{しや}と誅^{しゆ}とる事^{こと}も又^{また}
 君^{きん}の義^ぎ賊^{さく}といふ事^{こと}も不^ふ可^かといふ事^{こと}もいふに日本^{にっぽん}の如^{ごと}くは

天子の射し孝を憚るべき向也此故よ古の日月をふ
 る孟子礼書公羊の義と禁制あり事とわんう五
 雜祖乃說實して虚といわらば其後武家の代に
 成て後天子は遠馮の遷しをたかきかてよりと
 口實のあり孟子公羊禁止する事ありし中より
 孝乃風俗禮儀の厚く人道の固からん故よ末代
 文華のむらふして禮儀奢を僭禮甚多となり
 公羊の禮儀僭奢多し河の何れか人幸多し
 成り世の中もその風俗をたかき手極り幸ふ
 礼く成るありしや耶の太祖胡之の縁を清り萬

代の功を立流のり世々の天功を於てん太祖大
 明律と定め萬世に龜鑑をたかきしと云ふは古聖
 乃仁義を復しんと欲せり大禮儀が孝人幸實
 素ありしりや僭禮多し太祖の謚は欽明啓運
 後徳成功統天太孝高皇帝といひ太宗乃謚は體
 天弘道高明廣運聖武神功純仁至孝文皇帝と
 号する其以下の代も其謚の彰ひ也此謚より
 小堯舜禹湯文武の謚のていへり分るは文字か
 りと秦始皇帝六國を併して一統有り功德三皇
 五帝とあてりて如く皇帝れ号するは是始

皇代惡行のつかりは末代まで悪く譲り合ふ事也
後代の天子始皇の政道を以て悪くあつる皇帝は其の
よる事ゆつて其政を以て皇帝は亦文字に添く
其様といふる皇帝の事と云ふは其の也漢晋唐
宋皆然り明朝は如斯かる事むつる

書は其の事多きものも明のつかりは儒書
十三經註解百卷諸子百家法註百卷歷
史類教千卷各其末書細註と合するは万卷
其他の雜書は不知隱浪是皆身法也其の
この國は治り天下は平らなるもの也其經

書の義理漢唐の學者誤りて其のつかりは
ついで宋朝のつかりて大儒多く其後して聖經注解
れ其の古儒の語を以て其の考へ改むるは治國平天
下の學術世に大成と然るは學力の及ぶるは不
能處ありしを其の中國家古の有りたるもの
を祖述儒道は其の信ありて宋儒は闕するを補ひ
十六世二百七十餘年の治平ありて其間編作の
儒書不可勝計唐土の學術は其の全備と云
ふは國天下の北狄の者も其の事其のつかり
き事也其の書籍文章國土を充満するもの

世界を第一の上國とするの學術其徳用はげしく
是書公の事多き國の迷亂いよく多きこと
はち日本に上代より古書少くして神道王は明
らふ國鏡の民直不ありし時代より入て書籍國
土の充溢と人民文章多しして及んで神道王は
抑々國驕り人仍謀多しむりし
佛は天竺の如く相傳の教なり然れども其は其經
畫く唐土ははるしむりて本を以て佛は善惡
經論紛失たりしや吾國のは他國より傳えて
吾國より考へしむりしむり南天竺の國

近代他邦れるふ奪ひ傳へし國多きこと
國はよきこと佛法の徳用は天竺のよきこと
中より蔵經二千五百九十七部九千七百餘卷只
是即心成佛の教なり然るふ自の國公より
他のふ奪ひしむり是とや即心成佛なりしこと
つと日本に武勇と本に文章とを來しし
百世不易れ要害の國世界第一なり人情氣風
文章器財より多き萬國は類いなく別は二風
乃姿ありて藝能細工のよきもの多き其好む
處清潔は沈黙より多し物もよきもの多し

りつこし姿なりと申し是此如土の神風なり
 なるふも末代儒佛は書多くなり唐土天皇乃
 学以教ふ人多くなりといつてゆく異國は氣味
 うけりて異國の風神をねじまの風後といやえ
 是と信じ異國乃姿公奥とて萬民を廉を悦
 ひ質素と悪く常の風を賞まばりて好く奇如
 貴へる世をわたり今れとて百歳を過るる
 後いふ異國の風神は多作して事や多きなり
 をは先いてん中て世をいふは人多なり

世界萬國の開基先後を多しなりて唐土の人へ

唐土を最初の國とて韃靼天皇其外四方の
 ありて其國公にして世界は最初とて中國は
 是は窮つばしま天地の一國渾然の體ありて初
 辭始終一時なりといふなりは豈彼の方より
 開闢此方より開闢との理ありと其中萬
 國人物の開基はゆめといはぬと世運の理
 をのほくするに有るに然れ其開基早きを
 して貴國とて是を公よりて賤國とするに愚
 うりて有りて天地開闢の始は陰陽五行なり
 ありて有情は生るるに水火土木生成なり

有り情の氣化有り有り情の類ありて
 後鳥獸氣化有り鳥獸生て後人倫氣化有り
 草木の雜庸の類先いして靈秀なるもの後
 生て鳥獸の類先いして後小鳥小獸生て後
 小鳥小獸生て後聖人出生有るもの
 草木の實は花の先きの形色にして實は香味
 の後生熟と形と色との外なるもの
 香味の肉なるもの貴也此故に一花の開く事
 外より生るるもの香氣の後よ花の實は
 先外を堅くするに核仁のほふ定なり是貴なる物

一にして賤きもの早く生るるもの
 世界萬國の開基其地土の陽氣は偏なるもの
 早く開基氣化し陰氣は偏なるもの
 氣化し其陰陽中心の氣なるもの遅速の中間
 開基氣化あり都て物の氣は始中終あり始
 と終るとい形氣の中心あり中氣は氣
 乃開基早きもの
 日本國のりて佛者の粟教國を儒者の中國
 より開基し屬國なりとせり今世男大地

乃のあつてはさうば此大地世界といふの實測量の
考験なりて其間大日本は萬五千里ありて長曠
蕩の説ありは其内鴻洲多しといふ日本は如
りりとの八ありとのうら日本と等たりと云ふは
豈粟散聞くといへんや則日本は必りて大地の三
百六十度小配南より北東西十二度と得たり天
地三十六宮は配屬をじりぬは十二度の一宮の
分野なり其宿の元星は屬して筑紫の角星
乃終度と云ふるありは一宮二星の氣小屬は
天の星禽の萬物氣化の始なりは日本は境を

わて是氣化の神人ありと云ふんや日本の禽は蛟
龍ありと云ふなり

文字の言語の符契を人用を達せられたる多かり
丹波の世果萬國ありて文字あり偶文字あり
國も有といふは其國相應れ符契ありといは
其文字の氣化なるふみる五音悉曇の如く習字の
ついでといふ文字の數は千字或四千八百より多
かり紅毛人の文字は二十四文字ありて二文字は
とるを合して一字にして都合四千八百と云ふ者也其
一字の筆畫四五畫より多きといはしあるふ唐

土の文字に其數甚多く筆畫多うして是じの如く
 世界第一なりと云ふは外國の文字も人用するのを通
 達して不足は唐土に文字多うはる人用通達
 小ゆわて別よりるはいつかり故ると按とるは外國の
 詞のみを訓語して唐土の詞の韻語なるは皆り皆そこ
 訓語に其意義詞のうふわうて文字の意は文字
 假を用ゝるのうて其文字はいつた詞をば
 是の則の諸意を一通達とて文字を待つのは日本
 け和語の類別是かり唐土の韻語に文字に依るは
 諸意解ぐに此故は詩文も其句韻のうは依るは

其意義解に文字は依りて始く其意義とある
 者かりはみ文字と雜とて語句を文字に於て韻
 語は聲の東の字韻とていつた是人の韻中に東の
 字の意義同とて仍字註は依りて目方方なりと知り
 韻語に平上去入四聲同合紛々としてて迷ふ事
 多し訓語に志うは和語とていつた目方方なり
 して文字とていつた別目方方なり
 事依るは東の字の註訓に即ひていつた事乃
 うふわうて同人の文字通達とて是訓語の益あり
 唐土乃外に韻語の國只一國わり日本は東乃大

易小字露國くつあり此國乃胡唐土の如く韻語
かるは古老の語より此亦れ萬國の日本れ和語瓜
先としてふ訓語也訓語ハ文字ハより以韻語ハ文
字多クより其用達しくト久々多クより故より其
ハ筆畫多クより其ハ多ク分りくじいんや其代々筆
畫なるふひんて風流巧妙の字様を好むたりて一
字十體百體乃姿と造り奇異の字形と致す
と其て一は是ハ狂勢めて好急と争い傲ふ事と
ありの義之り義の名を香か子昂く水の字灌
濯ハ用かく火ハ字暖く其其角ハいつくそや

歐陽修の語ハ物極りて美なるものよりて氣の偏を
得るに由りて也又紅顏ハ勝るものより多ク命
ありと誠ハ奇珍を好愛するハ天地乃偏氣ハ悦
ハ之信是按るふハ勝るて富か人も天地の偏
運を受はま厚ありん其貪ハ人間の常感くも
其ハゆれ姿とるふ食ハかのほく母よをみれ
つてハハ衣服ハ富と造るふわさねハちかつと
財と求むるの姑りあり天地乃萬物とせしは粗
なるものより多ク精なるものより寡は貪ハ人
の者なりが故より多く富ハ人の偏なる故より寡

唐より日本に未だの風俗は文學のさうして古禮が實
 を失つた。多し寺社廟堂は額を付す。唐土より傳
 へて久しき事也。然れども古代の額はたゞ書
 といふ。吾官無後の元祐に書と云ふ。又額
 の表は姓名とて。書人々京都に古寺古社は上代名
 筆は額あり多く。筆者の名ははるばる。額乃
 裏は筆者は姓名あり。有るも。つらむ。故や。や
 見る。小或人のいふ。眼は見えぬ。故は。其故は。眼は
 ひさひさ。いふ。ま。と。本尊神像の面額。小表。と。い
 る。其。上。は。公。も。貴。け。人。と。頭。上。に。拜。戴。し。ま。故。の。公

を發とし。此故。小公家。も。長け。人。或。い。ま。徳。の。ま。僧。と
 といふ。額表は姓名は著し。筆は。教の。ま。也。唐土は。皆
 物新あり。根を異國より傳へ。る。事。は。は。唐土の帝
 統の世移り。姓ひり。て。朝庭の。故。異。風俗を。失。い。日
 本は。皇統の。用。圖。り。多。故。か。天子。一。姓。と。は。し。ん
 故。禁。裏。上。代。の。故。異。人。今。た。は。朝。庭。に。在。て。不。失。此。故
 了。異國より傳へ。慣。へ。る。も。唐土の。絶。ち。事。日。を。ふ
 い。失。い。ざ。り。ま。し。く。は。況。や。本。朝。の。禮。神。社。と。宗。教
 する。事。也。厚。然。る。小。進。代。唐土の。風俗。あり。と。て。能
 書。と。て。之。を。い。は。吾。官。無。後。元。徳。乃。元。祐。と。て。嫌

精氣神人れを氣の感通と易た之譬いつよ
 ありていつらびていつもの事なればはつよ
 是れもいつらびていつもの事なればはつよ
 とい後日此等なをわたりてはつよとい
 いはるる處の事なればはつよとい
 字の意を加つて来るつていつよとい
 諸言をわたりて唐の韻語にわたりて
 やすにわたりて和漢の字若く考案と
 今儒の説は影像と建てて祭祀とい
 といふといふは影像の其人といふ

則其人小わ以此故に祭祀といはれ
 神主を用つてと程子も論じ
 晋唐宋の影像皆影像といふ
 或は本像畫像を用ひて然る
 子れ説は後いふ禁中の聖廟
 といふ事や然るは漢晋唐宋
 祀は影像を用ひて非義ありて
 なく則朝の釋奠祭祀而鬼神感格あり

も神明の受より處ありて蓋教像ハ其人の形
體一毛と認りて其人の貌かたちも美うつくなる所の所ハ則
其人小形ちひさなり故に感格され道理する所古の祭
祀よりありて尸しかばねをきりて其鬼神の代かたり人を
立てて鬼神と見し憑よりて是は公衆の尸と倭
語より志ありて訓より形代かたしろの義ありて其今
髪かみ鬘まげしりて孝子ハ誠情公盡まことしむる也余
其人一毛を美うつくしる事あり人を因よりて都て
天地の間まは生なむる衆人而しては非たく萬物を悉ことごとく
令たまく同一ひとしき物ある事あり我身わがみ已まはる我命わがいのちも

我身わがみは又我身わがみなりや耳目鼻舌毛髮四肢百
骸がひ余われ我體わがみと同一ひとし者ハ天地始終一ひとえの間まを
我身わがみ一人ありて同人ひとは一人なりと斯ごとくありて禽
獸虫魚草木金石小形ちひさなるはて大小形色存あるは
重おもく重おもく相あ同ひとしき物ハ是この形體かたちありて常とこに
自然しぜん妙也豈いかん一毛と多おほくする人ありや
教像きょうざうも鬼神くわんしんハ憑よりて神かみ主ぬし教像きょうざうの差別
なりと況いかん尸しかばねをきりて人ひとの代かたりて明儒めいじゆの說いは
日本にっぽんの神道しんどうハ儒佛じゆふつ乃すなはち此國ここのくに自然しぜん乃すなはち風俗
ありて唐土たうど上右じやうごの儒道じゆどうハ相あ叶あはる諸社しよしゃの礼式れいしき

石町人囊因衣拂の二書ハ長崎乃隠公初求林每
 西川老先生編集一後ハ亦也先生去年の冬東ハより
 内常々篤公都よりハ我書瓜るるこころみく被送る
 送る書籍物ころのいふかこの人世言ハ事よ及我因て
 意々求ていふも先生ゆり終りと同郷の学友其よ
 ころいふも再とい及く送ハ此書瓜崎湯より得たり其町
 人囊と記ころい先生の謙ハ辞也ころ早く採ふふりり
 ころ永く再ハ度りハ士農工商の實袋と成るんころりり
 享保己亥年林鐘穀日

浪速書舗 田中宋榮堂蔵版目録

大坂心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

法橋寺島良安編

和漢三才圖繪 全八十冊

春秋列國圖 全一枚

唐明詩學聯錦 袖珍部分全

同續聯錦全

唐宋詩語類苑 中本 四冊

四季十二月二分天時令人事草木鳥虫時景
 物等ノ異名熟字詩語韻楚上下二段互見セ
 又詩格正編平仄之圖五七絶句律格索引
 等ヲ注初学ノ詩課ニ便ニス

詩韻含英 中本 四冊

同異同辨 同 四冊

内閣秘傳字符 全

同 頭書 二冊

其昌滕王閣 行書 大字 二冊

同 征途帖 同中字 全一帖

同 千字文 同中字 全一帖

義之十七帖 全一帖

隸辨 大本 二冊

唐本隸刻ニシテ卷首ニ畫引ヲ附シ隸字
 九千余頁ヲ書ス隸字ノ大全ナリ

詩法掌韻 小本 五冊

古文前集	一冊	五經	道春点	十一冊
古文後集	二冊	同新刻	閻齋点	十一冊
三體詩	三冊	同		十一冊
管子全書	十三冊	韋注國語	千葉校正	六冊
同甫正	二冊	同新版	冢注	六冊
同箋注	二冊	同增注	冢注	八冊
四書	道春点	同明道本		六冊
校正四書	道春改点	國語定本		六冊
	十冊	同畧說		四冊
		孔叢平		三冊
		同增補	冢注	五冊
		增補長曆		一冊

世三多用元所ノ四書ハ点假名繁多クテ恐クハ
 童蒙素読ノ多ク宜シカラザル今此四書ハ從前
 ノ諸書ヲ以テ点假名ヲ考ヘ諸先生ニ議リ謬誤
 改メ聲音ヲ正シ專ラ集註ノ趣意ヲ主トシ繁雜
 ノ假名ヲ刪リ簡要ノ点ヲ附ス○凡此ノ其ノ之
 也今ノ類ハ假名ヲ下シテ辨別ス餘ハ准知ルニ由テ
 校正ノ二字ヲ加フ
 世三四書數板ハ在リ万宗堂板
 此為最善ナリ

四書	片假名附	小本	三冊	左傳	觴	全三冊
同	卷懷形		三冊	晏氏春秋		五冊
同	白文	中本	四冊	陶淵明全集		四冊
春秋左氏傳	安永板		十五冊	學山錄		四冊
同	寛政新板		十五冊	古今名詩選		一冊
同國字解			十冊	五雜俎		八冊
同國字辨	尾州 加藤著		十五冊	楚辭證		四冊
校本左氏傳	秦鼎		十五冊	柳韓文		五冊
同助字法			三冊	韓文起		十冊
同考	小本		三冊	文語解		五冊
同杜解甫正			三冊			

大典禪師ノ著述ヲ虛字實字助語字等ノ
 同訓異義ヲ注解シ弘ク字義ヲ知ルノ書ナリ

五經白文 六冊

同 小木 六冊

外科衆方規矩 一冊

本道醫療近道 一冊

外科調宝記 一冊

世入腫物瘡毒一切の惣論出見を以て此書
治法を月系の條に肉系の方金瘡赤身の瘡
治法を六外科一切素人にも通ずるや
急務の要し傳し且諸流秘傳の方中
毒交死の救方本を以て

活幼心法 大本 各一冊

斥醫斷 一冊

北山醫案 三冊

灸法口訣 三冊

譯文筌蹄 初篇 六冊

此書八物徂徠先生ノ口授ヲ詩文其外書學
ニ取扱フ外ノ虚字半虚字同訓ヲ義ノ同ニ多
サルヲ門人ニ口ツカラ傳エタマヒシ形状作用ノ字義
ヲ詳ニ明弁シタル書ナリ

同 後編 三冊

同 須知 五冊

虚字解 二冊 同後編 二冊

四家雋 徂來先生著 十二冊

九經談 錦城先生著 四冊

裝劍寄賞 七冊

有職小說 三冊

此書八上今上ノ女官ニ至リテ無位陪臣ニ至リ迄稱号叙爵
叙位階ヲ委細篇ニ詳シ御ノ家格ニ至リテ盡ク著ルニ

脚氣方論 村巷先生著 三冊

凡カクトイエ症甚見キハルイ太ジナリ世医イマ
夕病原ニ委カラステ人ヲアマツテ先生深クナゲ
キ思ハレ救世ノタメ医道ニオイト秘トスルノ口授
妙論ヲ委クテ治方ヲ弁ジ置レタル脚氣療
用ノ尤最上ナル書ナリ

華陀中藏經 一冊

妙藥不求人 一冊

此書ノ諸病平西人ノ外急病ホニ医ニ求メ
カクハ山神海川の系種ナリ物ヲ治
法を巧安ク平ルニテ世ノ海世故方ニ傳
俗療の書ニテ其教の益ナリ

和漢茶志 三冊

茶湯秘傳圖式 一名謂 茶傳集 四冊

尊圓親王御真筆 全

同朗詠集二冊 同小倉色紙全

天地惑問珍 二冊

日月風雷雨震鬼門方位或ハ地獄極樂の説高
山深谷竜宮又八月の桂郎郎の夢人の生死其外
天地の問ニありテ其の多岐ナル地ヲ各ナリテ所
々ニ採合候の事ナリ之ニ依テハ其ノ事ナリ
老翁博識ニシテ物ヲ多ク知ルニ依テ俗ニ
其ノ事ナリ

堪忍記 四冊

貝原先生作

商人軍配記 川島清信画 五冊

此書商人のうらみ換差りるを以て其ノ事
を以テ不幸ノ事トナリ其ノ事ナリ
老翁福有の歌と成りて其ノ事ナリ
繪入の教訓本あり四民ノ事ニ依テ其ノ事
を以テ其ノ事ナリ
五身出世の事ナリ其ノ事ナリ
人トシテ其ノ事ナリ
出世早合点トナリ

天保用文章

一冊

商人日用書狀箱

一冊

同 新板 就章堂筆

一冊

同 増補大全

一冊

諸通文鑑

一冊

當用多智狀

一冊

早見 棗文

一冊

專玉古狀揃

一冊

繪消息千字文

一冊

此書ハ古状文を小入るる女子の儀ありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて

女文章大全 全一冊

此ハ女人日用の文のやうなりて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて

女今川姫小松 一冊

教訓百ヶ条ハ三十六教仙繪抄漆物仕万
物をとりて婚禮序の儀に記し
の古実妙筆秘傳書地名番源氏香の書
外キ女傳記の調法教多あり

女早見棗文 小本 一冊

此ハ古全く久々大極目ト云ふは
小々ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて

玉あそび 一冊

目ノ四

庭訓往来

假名附

一冊

全御家流

玉置筆無点

一冊

明衡往来

無点 假名附

各一冊

和漢朗詠集

假名附 無点

各二冊

大密朗詠集頭書

二冊

増補 大密朗詠集

半紙本

二冊

本文より付并 此奇の作者を記し以て
法華の儀消息は来七ツの形を以て
字の儀は形業文中行事の古実和漢書
所ハ来の儀は形業文中行事の古実和漢書
所ハ来の儀は形業文中行事の古実和漢書

新童子往来万密大全

大本

一冊

庭訓往來古採採商賣性甚多習状實
童子教小々其外重宝の本教多集
め童子初学の便く

嫁入談合柱

全一冊

此書ハ嫁入一式の儀ありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて

本林羅万象要字海 大本 一冊

玉海節用字林蔵 同 一冊

大會節用文字選 同 一冊

萬會節用百家選 同 一冊

大冊の節用世教多ありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて
其儀ハ古くは古字を記してありて

新童子往来 無假名 一冊

同文政新版平假名附 一冊

出世塵功記 一冊

近道塵功記 一冊

算法出世寶 一冊

算法指南車 一冊

同 大全 一冊

武人訓 一冊

此書ハ八算より見一用年用立升その
類より比しひるせよみ近知中よく令
根多辨位立ホテ外算術の法も委
しつわん見事もはやくとく去たる
重宝の本あり

文林節用筆海大全 大本 一冊

世俗通用の書礼上中の習文或ハ雅文を認
升生て去るをて去言一通りの中より選り
並且年終ハぬハ八編ハはの部とハは
改去小日用字のりて改教多集や書札ハは
久す惟忘の急索し便しと其外字をの費用
と備へ去れの本あり

同 小本 懷中必用 一冊

倭節用集悉改大全 一冊

此倭節用ハ系昨倭節通尚の作りて字極
訓を正し加後季序去人切を以今古異同を核補
一雅俗の文字切りて以増益し和漢の山川名
三都の軍内市武監並勇將氏臣各傳諸礼
の料理の載立百官名改其外世俗常用
の事夥く集りたる大冊安敷の節用あり

同増補大全 一冊

右倭節用ハ武將傳三世相テ外教系を
増補したる大成の本あり

生花千筋麓 三冊

東都醉花齋宗匠一家の流行しかりし生花
のそとまきさき生花指南花房の礼儀ホ
教系を出し門人一切依りて授せしれ
秘の口訣を残し取らる初巻生花の大全

大橋宗桂先生著

將棋圖式 二冊

此書ハ先生秘傳の妙手を記して作られ
たる法将棋のうして初分ある人の時
もも手もふ上達するの奇本あり

萬物故事要畧 大本 四冊

本朝神代ヨリ漢土代々帝王士臣ノ事實ヲ論シ年中
行事ノ来由其外四民世用ノ業事通俗ノ諺
スベテ世ニ知ガタキヲノ故実ヲ注釈シ節用ニ無
キ文字ヲ千余字集メ出シ事物ノ故事ヲ
記シタレハ博學ノ君子タリトモ坐右ニシテ耻
ザルノ書ニテ而モ國字ヲ以テ注シタレハ童
蒙ニモ讀安キ故事大全ナリ

大福節用萬寶蔵 萬會同断 一冊

繪本武者兵林 三冊

北尾雪玩斎の考しりて神后皇宮より以来
の名将勇士の高名ありて戦國一且唐土の
英雄事を集り如く其傳を附し繪
本ナリ

畫 英 狩野家随一の繪手本也 六冊

畫 寶 同断 六冊

盤挂白挽哥 一冊

月菴法語 一冊

かむむくら 白隠法語 一冊

盲按杖 一冊

此書ハあるがらるをことし一切の教戒を示し
一休えなす 二冊

曾呂利狂歌噺

三冊

曾呂利新編の諸本杜撰して古伝の撰り
御一新の撰り詠諧まゝ其古伝の物の傳記を
注し女を鬼とつゝ況風り云々とする所は
有り面白く一以集め人の蓋しるべきに
注す一有呂利氏の下著の雜記あり

同 快談

三冊

同 杜撰の撰り見聞する所の事或は忍
るべしを 右國の御前より加へて
たるをさしりたり

秘傳世寶袋

三冊

此は八州木の生衣衣披條を合物料理
番の撰り發病まゝ諸死まゝ常人の
了りなき秘術妙方二百十條の諸家の
秘傳を記し一平生讀免て我人の
よかり忽ち人の師となるの法を以て

和國智惠競

二冊

神仙秘事睫毛

二冊

和國をいふれ草

二冊

同 續

二冊

此は八州無きもの撰り秘術秘事を著
或は一枚の紙をてのりしてみちんと
落書きとして懸一紙幅を中して
まけのめを印さし作り出しかり
より一大豆の末を玉葱て人の穢さき
術をあら免はまをると記忽ち生来未
有の法なり

養賢須知

一冊

此は八州このつらさかひをさしり
蜀山人著

南畝帖

一冊

此は八州一代の狂奇詩文の佳作を
鷹養草

鷹養草

一冊

般若心經繪抄

一冊

阿弥陀經繪抄

一冊

右の西經ハ子達女中方でも讀む
本文よりを付添ひしりたり
又もやまゝに譯記あるありて
お難くは法語人々をせ利益を蒙
り免師通なくして此經の極意を
むるの法なり

役行者靈驗記

二冊

此書ハ役行者神變大善菩薩の誕生より
此一代の行法を悉く記しりたり
その本をみるもの多きなり
此利益を蒙るの法なり

民家育草

三冊

此は八州民家平生の身と心とを
家業をさしりたり
友の信をさしりたり
質素儉約をさしりたり
此法を記しりたり
此法を記しりたり

心學心得草

二冊

此は八州心をえんとして家業をさしり
朋友の信をさしりたり
質素儉約をさしりたり
此法を記しりたり

教訓我守

小本 一冊

此書ハ徳先生の教訓して
孝の道は君に仕て
忠の道は君に仕て
此法を記しりたり

いさめ草

一冊

此は八州聖賢の訓言の仁義礼智信の
を記しりたり
此法を記しりたり

戴恩記

四冊

此は八州の恩の記しりたり
此法を記しりたり

近世發句集

四冊

江戸深川蕉堂宗匠撰
當時存在の諸名家流の句を四季に分け發句として夥しく集め出し初巻の見合も有り二巻は文政口調の發句集なり

夜半翁蕪村文集

二冊

竹葉月居宗匠撰
此集八歳旦夏の詠梅呈進慕賀辞並銘狐法師の化せる賢翁の像賢翁の記は芭蕉堂再興の記行ホ世にせられたる故拾録してひろく世に知らるる

芭蕉翁發句諸抄大成

五冊

翁一代の句を採りて其集めを遺業としておの初たりといふ國書八作勢を知人書はきて俵りうれを花柑子との本号をとりて俵り杯の句毎に注釈一法名家の詠説を奉りて正風詠諧の原始を知りたげひるは上のおちり小秋の詠士と別して有益の大成なり

蕉門一夜口授

一冊

芭蕉袖草紙

三冊

翁一代の句を年歴次として流のりうりゆりゆを記し且古今四季の發句を註釋して集む詠人より一夜に及ぶきなり

俳諧道の便

小本 二冊

平賀月居宗匠の著述として蕉門の道をおもひはきりて丹條せいの句切字の意味附合を嫌もまて詠諧正風のそとすべからず秘説口傳として取りたげ師をたぐひて俳諧發句の上よりあるなり

俳諧問答

五冊

去来詩六の二哲俳諧問答の書なり

同芭蕉談

二冊

翁門人の同をとりてそれ教諭せしむる或又門人同士の詠諧と答られしものも去来評坡より長崎卯七の送り秘書をとる記せしれしなり

和語陰陽錄

一冊

明表凡著
大明の表了凡といふ人其子天啓の教訓の物語として悪を戒る書を著し六巻を成るといふ月を成りたる様招福の面會なり

和語陰陽文繪抄

二冊

右二冊一和語悪應報の物語和漢の書なりを繪益一和武尊傳戴斗先生の画をとりて子久人といふとよして著すはり子授り福書長久富貴繁昌の基を立兩運出世するなり

忠經集註詳解

一冊

此書八後漢馬融の著たる書ヲ門人鄭玄の注有古孝經ト共三行ハ中古湮没ノ傳ルマナリ明ノ宣徳中韓陽コレヲ序ノ天子ニ奉ル論ハ白有君必不可有讀ト云フ然ハ君アル人必見ルベキ書ナリ

顯傳明名錄

一冊

古の著述に有名の人々をその日名を時りて其時りて多し因ては古の人名異同と其の時と詳あり

喚子鳥

一冊

百千鳥

小本 一冊

此の両書ハ世々の御中其のありせり四季の加減はれりし鳥の足分わのりをあわし病鳥の妙を承承を委著者一鳥一病の重宝なるありて又ハ画家の鳥を記す使もあらざるなり

今世發句明題集

近刊

此の古今の宗匠家の發句集の名をを集め四季意難を分ち註釋して初巻の人を足るなり

士朗二大家集

二冊

月居 此は右二宗匠の家集として名を野々

前太平記

二十冊

北條九代記

十二冊

芭蕉翁俳諧四部錄 二冊

武田三代記 二冊

芭蕉翁廿五ヶ条解 一冊

源平盛衰記圖繪 六冊

宗因俳諧發句集 一冊

五經集註 五冊

俳諧世説 一冊

同半紙本 五冊

俳諧十六篇 一冊

同頭書 五冊

同一枚起請 一冊

史記評林 八尾版 二五冊

同六家集 六冊

一夜四歌仙 二冊

圓機活法 大本 二冊

擲良文集全 全

貝原先生著 日本歲時記 四冊

俳諧玉藻集 一冊

同新明題集 五冊

此書ハ四季恋雜神仙佛名ニまぎれり古人の歌をとりて集めて著たるものなり

崎陽求林存西川先生撰述書目

華夷通商考 五冊 虞書曆象俗解 三冊

怪異新断 八冊 兩儀集說外書天文義論 三冊

教童曆談 三冊 幹枝數原 二冊

天文和誘流 一冊 運世年卦考 一冊

日本水土考 一冊 氣運盛衰論 一冊

四十二國人物圖說 一冊 天人五行解 二冊

町人囊 附底拂 七冊 右旋有無論 二冊

長崎夜話 五冊 右七部未刻

河陽の篤公都よりわが書公に送るといふ彼送稿よ
造り書籍物々々の次々わが人の人此書は事よ及我國て
意より求むといふも先生ゆり治りて因く同郷の学友事よ
志よりいをる再といひ乃く送り世書公洛陽より得る人其町
人囊と記するの先生の謙れ辞也コトハわが早く撰本ふらり
らる承り母に廣りい士農工商の實徳とも成る人といふも。わがわ
享保己亥年林鐘穀日 洛陽書林柳枝江書

文政七甲甲年二月補刻

江都

須原屋茂兵衛

日本橋南壹丁目

大坂

秋田屋太右衛門

心齋橋通安堂寺町

